

指導者養成の新たな取組（2018年度第4弾）を国立若狭湾青少年自然の家で開催！ ～教育改革に対応した指導者養成 鈴木みゆき理事長がコーディネート～

国立青少年教育振興機構では、2018～2022年度にかけて順次進められる改訂学習指導要領の実施の動きに応じて、また、その一番手が幼児教育であることを踏まえ、幼稚園教諭や保育士等を対象としたシンポジウム形式の研修会を開いています。その中では、文部科学省や厚生労働省など、関係府省から講師をお招きし、改訂の背景や真意などの解説、実践事例の紹介をいただいています。

このたび、平成31年2月16日（土）～17日（日）にかけて、今年度第4弾として国立若狭湾青少年自然の家を会場に研修会を開催しました。年度末の開催であることから、「指導要録」「保育要録」についてもテーマとして取り上げ、幼児教育関係者等103人の参加を得ることができました。

初日は、国の府省から、文部科学省の河合優子幼児教育調査官、厚生労働省の鎮目健太保育指導専門官、内閣府の横澤峰紀子教育保育専門官をお招きし、鈴木みゆき理事長のコーディネートにより講師等それぞれとの掛け合いによるシンポジウムが行われました。

また、シンポジウム終了後、当機構の取組の一つであり、低年齢期の子ども達が海と直接触れ合う機会を提供することを目的とした「S.E.Aプロジェクト」の活動報告を行いました。

2日目には、国立若狭湾青少年自然の家のプログラムを体験していただくことを目的に、スラックラインなどの室内遊びや棒まきパン作りなどを体験していただきました。

参加者のアンケートでは、「改めて要領について考えていけるきっかけになりよかった。理解はしていたつもりだが、徐々にてきとうになっていた部分が、分かってきてよかった。」「内容が難しいのではと思っていたが、分かりやすくお話をして頂き、大変学びになりました。」などの感想がありました。



シンポジウムの様子



講師の鎮目専門官（厚生労働省）、河合調査官（文部科学省）、横澤専門官（内閣府）



S.E.Aプロジェクトの活動報告



2日目のプログラムの様子（棒まきパン作り）

